

【総務委員会】

2014 年度総務委員会活動報告(3 月期)

- (1) 会員数・賛助会員数に関して報告があった。
- (2) 報告事項
- ・協賛依頼に関して
「International Symposium on Physical Sciences in Space (ISPS)」
(開催地：同志社大学) 協賛依頼に関して承諾した。
 - ・日本農業工学会賞候補者推薦に関して
生態工学会より玉浦裕先生を推薦する事となった。
- 以上

【編集委員会】

2014 年度編集委員会活動報告(3 月期)

1. 生態工学会誌の発刊

下記の報告がなされた。

生態工学会誌「生態工学」26 巻 2 号～27 巻 1 号(2014 年 4 月、7 月、10 月、2015 年 1 月発刊)を発行した(内容：原著論文 10、短報 2、受賞記念寄稿 2、委員会企画もの 1、ニュース・企画・報告・お知らせ、投稿規程、総ページ 141)。

また、26 巻 4 号までを J-STAGE 上の電子ジャーナルとして公開した。

2014 年度「生態工学」掲載論文一覧

種類	第 26 巻			第 27 巻
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	2	4	2	2
短報	1		1	
総合論文				
解説・資料	1	2		
受賞記念寄稿	1			
ニュース・企画・報告	1	1	1	2

【表彰委員会】

2014 年度表彰委員会活動報告(3 月期)

2015 年度生態工学会学会賞受賞候補者の選考結果について下記の報告がなされた。

1. 受賞候補者の募集

- ・募集期間：2014 年 4 月 1 日～10 月 31 日(学会誌, 学会ホームページ)
- ・募集結果：推薦 3 名(学術賞 1 名, 奨励賞 2 名)

2. 受賞候補者の募集

- ・選考期間：2015 年 2 月 16 日～2 月 27 日

- ・選考結果：下記のように決定した。

賞種類	氏名	対象件名
生態工学会賞 学術賞	大西 充	宇宙用生命維持技術の研究
奨励賞	田村 匡嗣	交流高電圧印加電極上で保蔵したホウレンソウの品質に関わる特性変化の検討
奨励賞	千葉 陽介	大豆麴を加えた味噌原料の熟成中のORACと色の変化

2015年度生態工学会特別功績賞候補者推薦について

2015年度生態工学会特別功績賞に関し、下記1名の会長推薦があり、表彰規定第12条に基づき、理事会に提案され理事会はこれを了承した。

受賞候補者一覧

賞種類	氏名	対象件名
特別功績賞	大政 謙次	生態工学に関する一連の研究および学会運営に対する功績

以上

【企画委員会】

2014年度企画委員会活動報告(3月期)

下記の報告がなされた。

- (1) 日本地球惑星科学連合2014年大会（合同開催）
 - 日 時：2014年4月28日（月）～5月2日（金）
 - 会 場：パシフィコ横浜（横浜市）
 - 主 催：日本地球惑星科学連合
 - セッション参加人数：30名
 - 特記事項：4月29日（火）にセッション「惑星と閉鎖生態系における生物のシステム-微生物からヒトまで」において、6件の口頭発表と3件のポスター発表を実施した。
- (2) 2014生態工学会年次大会（主催）
 - 日 時：2014年6月27日（金）、28日（土）
 - 会 場：プラサヴェルデ（静岡県沼津市）
 - 参加人数：80名
 - 特記事項：一般セッション口頭発表 20課題、ポスターセッション22課題
特別講演会「生態系保全に向けた地域の資源・エネルギー有効利用」
静岡県における再生可能エネルギー利用の現状と展望
平井一之（静岡県環境資源協会）

(3) 第7回生態工学・定例シンポジウム

日 時：2014年11月7日 (金) 13:30~17:00 情報交換会 17:30~19:00

会 場：東京工業大学大岡山キャンパス西8号館E棟10階1001号室

参加人数：30名

テ ー マ：再生可能エネルギーの現状と課題

再生可能エネルギーの現状と課題 佐久 秀弥 (経産省資源エネルギー庁)

人類の太陽エネルギー時代が始まった 玉浦 裕 (東京工業大学)

洋上風力発電と海洋エネルギー利用の現状と課題 塩原 泰 ((一社)海洋産業研究会)

宇宙太陽光発電システムについて 藤田 辰人 (宇宙航空研究開発機構)

(4) 第58回宇宙科学技術連合講演会 (共催)

日 時：2014年11月12日 (水) ~11月14日 (金)

会 場：長崎ブリックホール (長崎市)

主 催：日本航空宇宙学会

特記事項：オーガナイズドセッション「宇宙で生きる！」を企画、13日(木)に18件の講演実施

(5) 定例研究会

第1回

テ ー マ：植物工場空調の現状と課題

日 時：2014年5月30日 (金)

会 場：駿河台記念館

講 師：伊能利郎先生 (ダイキン工業株式会社)

第2回

テ ー マ：竹林整備で日本を救う

日 時：2014年10月24日 (金)

会 場：駿河台記念館

講 師：篠崎 正利先生

(認定NPO法人蔵前バイオマスエネルギー技術サポートネットワーク)

第3回

テ ー マ：福島県における復興支援の取り組み

日 時：2015年3月5日 (木)

会 場：東京文化会館

講 師：中林 和重先生 (明治大学)

以上

【広報委員会】

2014 年度広報委員会活動報告(3 月期)

下記の報告がなされた。

2014 年度活動報告

・SEE Quick 配信（メール配信）の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員並びに関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ 2014 年 10 月 21 日から 2015 年 3 月 6 日までに 33 回（通算 1022 回）情報提供を行った。今後も SEE Quick の配信業務を行いながら、問題点などを検証し改善に努める。

・HP の内容の更新

HP の内容のうち、定例研究会、委員会活動、投稿規定の項目の更新などについて検討を行った。

以上

【次世代科学社会活性化委員会】

2014 年度次世代科学社会活性化委員会活動報告(3 月期)

下記の報告がなされた。

本年度活動

- 1.地球惑星科学連合(横浜)に参加し、セッション終了後に交流会を行った。
- 2.男女共同参画学協会連絡会活動を行った。10月7日のシンポジウムにポスター参加した。
- 3.生態工学会若手の会発足準備を行った。
- 4.生態工学会誌に談話室を開催し、第1報目を掲載した。

本年度活動予定

- 1.生態工学会 2015 年度オーガナイズドセッション申し込みを行った。
オーガナイザー：次世代科学社会活性化委員会（特別企画 I）
セッションテーマ：研究者の生活 - 世代を超え伝えたいこと・知りたいこと
セッション内容：生態工学に関わる分野の中から、今回特に生物学分野を中心に、研究機関を既に退職している研究者・現在自身の組織内で管理者として働く研究者・研究社会で若手といわれる世代の研究者・ポスドクや大学院生等研究者を目指す若者らと交え、自身の研究に取り組んできたことや現在の研究概要と模索する未来の研究象などを知り合う場を用意し、生態苦学分野の活性化を図る。（研究者 4 名程度＋ポスドク・学生 2 名程度で 2 時間）。
- 2.次世代科学社会活性化委員会に若手の会を置き、若手の会を発足準備した。若手の会初代会長を木村駿太（筑波大）委員として理事会で紹介する。活動内容予定を理事会にて報告する。
- 3.男女共同参画学協会連絡会運営委員として活動する。また、シンポジウム参加を予定している。

- 4.次世代科学社会活性化委員会・男女共同参画学協会連絡会でお世話になっている、当学会会員跡見順子農工大特任教授および清水美穂准教授より、科学と平和と題し、今後の日本を科学の目で見ることを、理科・技術系学会から提案要望書を提案した趣旨の連絡を頂いた。憲法9条が絡む内容であるため、政治に絡まずに進められるのであれば進めたいと考えているが、検討事項とした。
- 5.地球惑星科学連合 2015 年大会のセッションをとりまとめを行う。その後、世代を超えた出会う場として、簡単な集まりを予定している（詳細は未定）。
6. 談話室継続を行う。

以上

【事業推進委員会】

委員会として東日本復興支援の一助とし、下記の活動を行なう事が提案され、理事会はこれを了承した。

題名；福島県新地町でのミニトマト養液栽培事業の支援

目的；先の震災で1.5ヘクタールの温室が倒壊した事業者の栽培支援を行う。

学会への貢献；栽培支援で得られた内容を、年に1回程度報告する。

(注)：学会から、金品の持ち出しはなし。

以上

【国際委員会】

下記の報告がなされた。

2014 年度活動報告

2014 年後期にスイス連邦工科大学（ETH）滞在中に見学した研究室の研究内容紹介原稿を海外通信という形で準備中である。

上記等の活動に関して、学会誌への掲載では無く SEE Quick および HP 等にて情報提供を行なう事を検討する事となった。

2015 年度活動計画

当学会関連の海外研究の動向、国際会議などについて会員から情報を募ったり自ら調査したりして、積極的に情報発信を行う。

「海外情報」と「内外の研究動向 (Trend watcher)」への投稿ならびに情報提供の

メールアドレス：fumishira@brs.kyushu-u.ac.jp

以上

【出版企画委員会】

閉鎖生態系・生態工学ハンドブック（生態工学会編）（案）に関して、下記の報告がなされた。

発行予定日：平成 27 年 7 月末日予定

今後の流れ

- ・ 3 月 20 日までに著者に原稿を e メールにて送付（個別）
- ・ 校正の期間は 2 週間程度

- ・校正戻し時に著者紹介（共著者含む）原稿を添付していただく
（校正用原稿に要項を添付）

- ・著者紹介は、巻末に章ごとに掲載。

なお、発行時に会員（賛助会員に関しては口数に応じて）に関して発送することが確認された。また、追加購入を望む会員に対しては、学会が保有する在庫から定価の20%引きにて販売する事となった。

以上

【関西支部報告】

下記の報告がなされた。

日時：2014年11月29日（土）、場所：大阪府立大学 I-site なんばにて、日本農業気象学会近畿支部との合同シンポジウムを開催いたしました。

次年度も継続的に、日本農業気象学会近畿支部との合同シンポジウムを開催予定。

なお、支部規定を作成の上、各支部での活動に対して支部単位で会費徴収を可能とする事となった。

以上

【九州沖縄支部報告】

下記の報告がなされた。

2014年度活動報告

高専での集中講義の際に本会の紹介を行うなどして会員募集を行った。

2016年に宮崎で開催予定の生態工学会年次大会準備のため、みやざき観光コンベンション協会職員と会い、学会開催支援の情報収集を行った。

2015年度活動計画

引き続き生態工学会の宣伝と会員募集活動を行うとともに、2016年度の年次大会に向けて情報収集を行う。

以上